

平成 21 年 4 月 28 日現在

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2006～2009

課題番号：18202009

研究課題名（和文） モダニズムの世界化と亡命・移住・難民化

研究課題名（英文） Global Dissemination of Modernism and Human Diaspora

研究代表者

西 成彦（NISHI MASAHIKO）

立命館大学・先端総合学術研究科・教授

研究者番号：40172621

研究分野：比較文学

科研費の分科・細目：各国文学・文学論

キーワード：モダニティー、モダニズム、植民地主義、アヴァンギャルド、亡命、移民、難民、比較文学

1. 研究計画の概要

第一次世界大戦後から 1960 年代までの諸都市をピックアップし、それら諸都市の無国籍性を可能にした歴史的条件、とりわけ民族移動との結びつきに留意しつつ、それら諸都市がモダニズム運動のセンターたりえた根拠を明らかにする。

対象地域の拡散を防ぐために、(1)ヨーロッパ・北米、(2)ラテンアメリカ・中東、(3)東アジアの三拠点にチームを貼り付け、それぞれの地域的な問題を整理したうえで、総合する。

2. 研究の進捗状況

三拠点をめぐる個々の研究活動は、すでに多くの単著として公表されており、以下、拠点別に記す。

(1)ヨーロッパ・北米では、鈴木政雄の単著が、世界のモダニズム文学の中でのフランス・シュルレアリスムの位置をはっきりと浮かび上がらせている。また、東欧地域のモダニズムをめぐっては、ポーランド人のディアスポラにともなったモダニズム文学の布置について、西成彦の単著が新しい視点を打ち出し、石川達夫はチェコのナショナリズムとモダニズムの関係について着実に研究を積み重ねている。ならびにモダニズム全盛期の批評家としてのワルター・ベンヤミンについては細見和之の単著がその言語論にふみこんだ研究を達成した。一方、北米モダニズムについては、長畑昭利、野坂政司が、目下、成果を準備中である。また、黒田晴之は東欧

のユダヤ文化の北米への移植に関して、先駆的な仕事を続けている。

(2)ラテンアメリカ・中東に関しては、崎山政毅、久野量一を中心に、安藤哲行の助言を受けながら、ラテンアメリカ前衛文学をめぐる基本文献の翻訳が進行中で、また岡真理の単著はこれまで未踏の領域であった中東・アラブ地域のモダニズム研究に、地域の歴史的バイアスを考慮しつつ、先鞭をつけた。

(3)東アジアに関しては、大日本帝国時代の日本と周辺地域に関して、木村一信の共編著、および西成彦・崎山政毅の共編著に、研究分担者数名が参加するなど、日本モダニズムと民族マイノリティの関係について最先端の研究成果を発表しつつある。また池内靖子および中川成美の単著は、日本モダニズムの歴史研究・理論研究に新視角を打ち出し、林少陽および鈴木将久、エリス俊子は、日中のモダニズム比較に関して、この3年間で大きな成果をまとめる前段階にある。また、これらの研究に対する李静和（政治思想研究家）、井上明彦（造形作家）からの助言はきわめて有益にはたらいている。

その他、大平具彦の単著は、地域横断的に 20 世紀前衛芸術全般を鳥瞰して、壮大なモダニズム像を明らかにしている。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

各分担者の研究成果は多くがすでに単著の形で発表されており、本研究会としては、それらの総合、および研究会で話題提供を求めた博士後期課程院生の研究活動の促進、以

上二点の主眼を置くが、これらの目標はいずれも達成途上にある。

4. 今後の研究の推進方策

2009年度は最終年度にあたるので、各分担者が蓄積してきた研究成果を総合・集約する年としたい。

そのためにまず三拠点ごとの問題点の整理・点検に加えて、別途「理論部門」と「移動部門」に分担者を分割して、「モダニズムの世界的な布置」をめぐって、ならびに「亡命・移住・難民化とモダニズムの関係」をめぐって、それぞれ整理・点検をおこなう。

最終報告書の作成に向けては、若手研究者にも機会を与え、論文の募集と研究指導を行う。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計10件)

IKEUCHI, Yasuko, "Performances of Masculinity in Angura Theatre: Suzuki Tadashi On the Actress and Sato Makoto's Abe Sada's Dogs", *A Journal of Performance and Contemporary Culture* 1-2, 2006年, 8-27頁, 査読有。

林少陽「現代思想としての西脇の詩学理論 そのロマン主義とヘーゲル主義批判をめぐって」『日本思想史研究』9, 2008, 74-10頁, 査読有。

林少陽「漢字圏文脈のモダニズム文学 近代修辞批評系譜の中の横光利一の批評理論について」『比較文学研究』92, 2008, 47-64頁, 査読有。

OHIRA, Tomohiko, "Entre le regard et les mots pictogrammes magiques de Serge Goudin-Thebia", Franc Doriac (dir.): *Une oeuvre de Serge Goudin-Thebia les guerriers de l'ascolu*, Harmattan, 2007, 35-41頁, 査読有。

石川達夫「パトチカとナショナリズム 「チェコ民族再生運動」とチェコ・ナショナリズムをめぐって」『思想』1004, 岩波書店, 2007, 138-155頁, 査読無。

黒田晴之「シャガールの描いた楽士はどんな音楽を演奏したか(1)(2)」『松山大学言語文化研究』27-2, 2008, 29-66, 67-100頁, 査読無。

NISHI, Masahiko, Frontiers and Borderlands of Japanese (language) Literature, *The Proceedings of East Asian-South American Comparative Literature Workshop 2007*, Tezukayama Gakuin Univ., 2008, 103-119頁, 査読有。

Nagahata, Akitoshi, Pound's Reception

of Noh Reconsidered: The Image and the Voice, *Ezra Pound, Language and Persona (Quaderni di Palazzo Serra 15)*, Massimo Bacigalupo and William Pratt, Genoa, 2009, 113-125頁, 査読有。

久野量一「暴力に抗することの困難 コロンビア、イングリッドの六年半から見えてくるもの」『すばる』2009-2, 集英社, 2009, 254-268頁, 査読無。

鈴木政雄「マルクス主義(から)の解放 ニコラ・カラスと1935年以降のシュルレアリスム美学」『Etudes françaises』16, 2009, 162-175頁, 査読無。

[学会発表](計3件)

崎山政毅「アンデスのアヴァンギャルド: インドアメリカ主義・インディヘニスモ・ネオ=インディアニスモの関わりから」社会思想史学会, 2006年10月22日, 法政大学市ヶ谷キャンパス。

鈴木将久「竹内好と『魯迅』」魯迅と当代中国文化工作坊, 2008年5月28日, 華東師範大学。

エリス俊子「Modernismとモダニズム 創造性について」『シンポジウム: モダニズム受容の諸相: 雑誌『詩と詩論』とその周辺』2008年11月1日, 東京大学駒場キャンパス。

[図書](計9件)

鈴木雅雄(著)『シュルレアリスム、あるいは痙攣する複数性』平凡社, 2007, 1-368頁。

神谷忠孝・木村一信(共編著)『<外地>日本語文学論』世界思想社, 2007, 1-327頁。

西成彦・崎山政毅(共編著)『異郷の死/知里幸恵、そのまわり』人文書院, 2007, 1-293頁。

西成彦(著)『エクストラテリトリアル』作品社, 2008, 1-339頁。

池内靖子(著)『女優の誕生と終焉』平凡社, 2008, 1-345頁。

岡真理(著)『アラブ、祈りとしての文学』みすず書房, 2008, 1-307頁。

細見和之(著)『ベンヤミン「言語一般および人間の言語について」を読む』岩波書店, 2009, 1-278頁。

大平具彦(著)『二世紀アヴァンギャルドと文明の転換』人文書院, 2009, 1-456頁。

中川成美(著)『モダニティーの想像力』新曜社, 2009, 1-383頁。